

未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

記により講義を行いますので、学生、教職員の方、多数ご来聴下さい。聴講は自由です。

記

Advanced Topics in Anticancer Chemotherapy: Basic and Clinical Sciences

「抗がん剤薬理学概論 I・II」

10月15日(月)「抗がん剤のファーマコゲノミクス」

担当:本学難治疾患研究所 三木 義男 先生

10月16日(火)「抗がん剤の血中濃度モニタリング」

担当:本学医学部附属病院 永田 将司 先生

10月17日(水)「抗がん剤薬理学概説」

担当:帝京大学薬学部 安原 真人 先生

10月19日(金)「抗がん剤とトランスポーター」

担当:金沢大学医薬保健研究域薬学系 玉井 郁巳 先生

10月22日(月)「抗体薬の PK/PD」

担当:横浜薬科大学薬学部 栗原 隆 先生

10月23日(火)「抗がん剤の臨床薬理学」

担当:慶應義塾大学医学部 谷川原 祐介 先生

10月24日(水)「分子標的薬の開発」

担当:エーザイ株式会社 小竹 良彦 先生

10月26日(金)「チューブリンや変異遺伝子、筋肉を標的とする抗がん剤研究」

担当:東京薬科大学薬学部 林 良雄 先生

1 時限 : 18:30-19:50 2 時限 : 19:50-21:10 質疑応答 21:10-21:30

場所 : M&D タワー11F 大学院講義室 3

概要:

アレキル化剤から分子標的治療薬まで、多様な抗がん剤の作用メカニズムを概観し、ヒト化抗体医薬や分子標的薬の開発と臨床応用の具体例を紹介する。抗がん剤の吸収・分布・代謝・排泄や腫瘍組織への移行過程における薬物トランスポーターの関わりやその変動因子について考察する。

有効性と安全性という観点から、PK/PD に基づく合理的な抗がん剤の投与設計や具体的な抗がん剤の調製における注意点につき講述する。抗がん剤の選択的な腫瘍組織への送達や薬物濃度の制御を可能とするドラッグデリバリーシステムの進歩について解説する。さらに、個々のがん患者に対して最適な化学療法を提供する、いわゆるテーラーメイド医療の実現に向けた、ファーマコゲノミクスの取り組みについて講述する。新規抗がん剤の創製に向けて、抗体医薬やメディシナルケミストリーのアプローチを紹介する。

科目担当責任教員:本学大学院医歯学総合研究科 三宅 智 先生